

第6回図書館建設運営委員会

日 時 平成20年3月19日(水) 18:00～20:45
場 所 公民館 講堂
出席者 専門部会委員 19名 聴講者 5名
設計者及び事務所スタッフ 古谷氏、八木氏、杉下氏、他スタッフ1名
市川教育長、池田推進幹、花井館長
事務局 2名
職員プロジェクトチーム 7名

議事録

1. 開 会
2. あいさつ

(委員長) それでは第6回の図書館建設運営委員会をこれから始めます。今日は先生に最新の設計図面を見せていただき、その込められた思いも全部説明していただきます。また、こちらには模型もできていますので、後ほど、先生のご説明をいただいて、みんなで立ってそれを確認するという時間も取ります。

それではまず1番目から。設計者からの説明・報告ということで、概ね、30～40分間先生に説明していただこうと思いますが、よろしくお願いします。

3. 会議事項

(1) 設計者からの説明・報告

(古 谷) みなさんこんばんは。それでは前回お話したとおり、そろそろ建築の間取りの部分、柱がどこにあって壁がどこにあってという間取りの部分を決めるリミットになってまいりました。前回もお話しましたがけれども、中に並べる家具に関してはもうちょっとだけ考えていくこともできます。それから家具のうち、固定をしないもの。床の上に置いてあるものに関してはまだまだ考えて、あるいは開館後もやってみながら少しこういうふうに変えてみたらどうだろうというような工夫をする余地もあります。ですから建築の設計というのはいろんな段階のものが混ざっているんですけども、今日のところは一番大きな骨格の部分のそろそろ決めたい。しかしそうは言ってもその中に置く家具のイメージがつかめないと、箱が良いかは分からない。これも当然のことなので、家具のほうは、今我々がこれがいいのではないかと考えているように並べてあります。

それを一応参考にして、建築そのものがこの方針でいけるか、それをご確認いただきたいと思います。

お手元に二つの案がありまして、これはこのひと月の間、以前から議論になってきたいくつかのことを盛り込んで、二つのタイプにしてみました。二つの大きな違いは、子どもコーナーの場所の違いです。それは後でご説明しますのでそのつもりで見てください。

今日ここでお目につけようと思っているのは、家具のレイアウトの件と、それから、それぞれの家具のもうちょっと細かいイメージ。そして実際館内に並んだときにどうなるかといったもののイメージをまとめてきたものです。

まず、家具のレイアウトですが、パターン①。これは従来私が、これがいいのではないかなあと思っている提案のほうです。この左下のところ、役場に通る抜けるほうにエントランスがあります。そこから来た時に、左手にコンシェルジュの受付カウンターがあって、さらにその奥に児童書のコーナーがあって、その背面を利用して、個人視聴覚等に使いましょうと従来説明してきた視聴覚ブース。その場合には南側の窓に沿った所に、一般の閲覧コーナーがありまして、個人机ということで、後でご説明しますが、互い違いに掛けていただけるといったような机がこちらにあります。そして、中高生を中心とするようなヤングアダルトのコーナーが従来どおり、この東側のカーブしたラインにある。この頂点のところ、どっちから出てきても休憩できるようなくつろぎのコーナー、少しソファでリラックスして休めるコーナーを持ってきました。そういう構成になっています。これも後で家具のところでも細かく説明いたしますけれども、それぞれの家具の高さはいろいろ使い分けていまして、かなり背の高い家具を使ったところは、領域を遮断する効果が出てきます。つまり、こちら側と向こう側を間仕切りというほどではないけれども、ゆったりなんとなく分けてくれる。一方、低い家具というものは、領域を分けることなく、両側の人たちがそこで出会って、出てくるようなそういうタイプに。ここでいうと、こちらへんにジグザグ並んでいる、特に机はないんだけど、雑誌とか資料とか持って、手にとって読もうというコーナーや、くつろぎのコーナーはそういうわけで、割合低いタイプ。一方遮断性のあるといいました、児童コーナーであるとか、あるいはこの中に、実は中の島になるところが一段高いところで出来上がっていてこの両脇が少し低い段になっていて、この辺の少し高いかたまりは、こちら側の玄関の少しにぎやかな、人の出入りのあるゾーンに対して、読書のコーナーを間仕切りというほどではないけれども隔ててくれる。そういう効果をもっているものです。

この手前にコンシェルジュというカウンターを作りました。誰が来ても、なにが来ても、まず声を掛けて相談ができるようなところです。「おはようござい

ます」から始まって、なにがどこにあるんですか？あるいはここは一体どういうところですかと観光客の方が来られたり、そういうようなことによらず受け答えのできるコーナー。それに対して私が前から申し上げている図書館としての重要な、もう少し真剣なレファレンス。閉架書庫にある本に関する相談や、それを出してほしいとか、あるいは何かいろいろ調べていく上で、もう少しじっくりと、いろいろなことを聞きたいコーナー。これを図書館のいわばバックヤードになるゾーンをしょったところにあるサービスカウンターで対応する。これが二つに分かれているのがだんだん今回の図書館の特徴になってきています。当初私達はサービスカウンターを奥一点に集約する形でいきたいというふうに思っておりまして、そちらで十分機能すると基本的には思ったのですが、こちらの館が今までもずっと来た瞬間に来館者に声を掛けるといような運動をされてこられた。そういう習慣がございますから、そういうことで、二つに分けました。実は二つに分けて、あまりお互い顔が見えないと、あっちのカウンターどうしたかな、いないのかなというようなことになるということで、お互い二つに分かれたカウンター同士が向こうでやってくれているなというようなことがわかったり、ちょっと応援にきてもらいたいんだけどというようなことを手を振ったりして呼べるような感じ。つまり、目と目が合える形ということでカウンターを両方とも本当は顔が見える位置にしたい。同時に今度、そのカウンターから館内を見た時、この二つに分かれたことによって、この手前のカウンターからは、この窓辺のゾーン。それから、児童書を含むこのあたり一体のゾーン。これももちろんよく見えています。もちろんここに本棚が入りますから、少しこちら側は奥にはなりますけれど、この南側のこのブロックの本棚は比較的低い本棚になる、あとで模型を見ていただきますと分かります。比較的低い本棚にすることで、ここに居ながらにして奥の方まで気配を感じることができる。

一方、奥のカウンターからは、トイレの周辺、多目的ルーム、あるいは今回授乳のコーナーのカーテンをご要望で付けてありますけれども、いわば裏方で発生するいろんなこと、それに目配りやお手伝いをしていただくためにこのカウンターがありますが、ここから同時に中高生のゾーンを通り越して、このくつろぎコーナーまでを一応、見通している。二つに分かれたことは境界が二つに分かれるデメリットもあるんですけれども、逆に二つに分かれたことで館内隈なく、なんとなく目配りしておける。そういうメリットも当然ありまして、今はそういう形にまとめてみました。

児童図書コーナーは先ほど申し上げたとおり。ここは桜の木を保存して、桜の木を取り囲んだように作ろうというコーナーなんです、前からもお話しているように木というのは、南側から太陽の陽が当たると、これが一つの照明体

になってくれるんですね。日の当たった梢が間接照明を運んでくれる。このあたり一帯の木がそういう役割を果たす。実は北斎ホールの壁もそういう役割を果たします。これリフレクターというのですが、要するに、光はこれに当たって柔らかくこの辺を照り返してくれる。そういうゾーンになっていまして、その中でもこの桜を取り囲んだこのあたり一帯の部分、ここを児童コーナーにしたらどうかというのが私達の元々の考えです。

それから一般図書コーナーが右側に並んでいて、そしてくつろぎコーナー。で、ヤングアダルトのコーナー。全体を合体しますとだいたいこういう感じの使い分けになる。言ってみれば入り口を入れてサービスカウンターに至る、あるいは多目的室に至るこの部分というのは、この図書館でいえば一つの大通りになる。この大通りに面したところに、入り口にカウンターもありますし、雑誌のコーナーもありますし、町を知るコーナーもあります。それから、視聴覚のブースもあれば、あるいはこういう図書館本体の本棚のゾーンもある。さらに行けばトイレもあり、サービスカウンターもあり、授乳やその他のそういうことに使えるゾーンがここにあって、さらにその奥には多目的ルーム。そして調査閲覧室がある。特殊な活動がこの後ろにある。これがいわば大通りになります。ここは比較的、絶えず人々の出入りがあって動きがある。そういうゾーンです。それに対して残りの二つの辺が「静」の辺というふうに位置付けられまして、落ち着きのある静かなエリア。それから中高生。中高生もここら辺ではいろいろやってもいいのですが、ここに座った時には比較的静かに、多少お話はしてもいいですけども、どちらかといえば、みんなの迷惑にならないようにいる、比較的静かなエリアをこの二辺にしよう。その前に、この本棚の一つの群れを置いておきましょうというのがこの案です。

もう一つの案に入りたいと思います。これはさっきも言いましたが、簡単にいうと子どもコーナーが違う位置にあります。その時にどうなるかというと、コンシェルジュカウンターとサービスカウンターの関係はこうなります。この間にある元は児童コーナーだった部分には、こちら側から見ると同じように視聴覚コーナーや新聞雑誌のコーナーが設けられていますけれども、この後ろ側、桜の木に面した側をくつろぎコーナーにしました。これは町を訪れた観光客の方がそこに腰をおろしてもいいし、本を読んでもいいし、新聞雑誌等を読むときにここに行ってもいい、というコーナーになります。この場合には、一般図書のコーナーをここに置いたままにするかどうかですが、どうしても児童コーナーへの動線が、ここへ入ってから通りをとおっていくという関係で、今は試しになんですけども、ヤングアダルトの、要するに中高生の読書テーブルの中を通っていくように考えています。一方大人の方の閲覧室は奥に。一般図書コーナーとして、一番奥のところにあって、ここの静寂化を保つ。ここは静寂

さも中ぐらいになるんですけども、そういうゾーンで、南側といわれているところが、中高生と子ども達がいるゾーンになっていく。

児童図書コーナーに入りまして、ここは緩やかに遮断するための本棚があります。この本棚、この間伺いましたところ、児童書の中でわりあい薄い絵本の類これが 5,000 冊ほどあるということで、それを 5,000 冊並べて、その他の単行本も含めて現在 10,000 冊というふうに伺いまして、それは、一応このあたりで収納できるように大体の大きさを決めてある。

これらを総合しますと、このパターン②の時には大通りは大通りですけども、大通りの左手の部分は、今度は活気とくつろぎの交じり合うエリアになります。この部分は、人の出入りがありますからどちらかというとなんか静かとはいえないですが。だけど、このカーブの裏側の方に回りますと、それなりにちょっとした落ち着きもあるという、そういう大人のコーナーになります。また観光客を含めた人たちのくつろぎのコーナーにもなると思います。

一方こちら側は、先ほど申しましたように中高生と児童がここに一つのラインに並びますので、このへんをどういうふうにコントロールするかという問題はあります。けれども、児童といっても高学年になりますと中学生とあまり変わらないところもあるわけで、このへんにあまり区切りがないものですから、一繋がりになるという方法もないとはいえないというふうに思っています。

それぞれの家具の方針です。これは模型で見ていただくとわかりますが、まず、コンシェルジュカウンター。入り口のカウンターのところ、細かいデザインはこれからやるのでおおざっぱな考え方でですけども。今たまたま椅子は一つしか置いてありませんが、一人ないし二人、ここにいることができるぐらいの広さを作って、そして、一般的な貸出し・返却、館の利用案内。あるいは場合によってはここだと道案内もおこるかもしれないですけど、そういったことを気軽に尋ねてもらって、気軽に答えられる、そういうコーナーをここに設けようと思っています。そして一方、近くには利用者が使うことのできる検索用のパソコンを置いて、使い方が分からなければ、それもコンシェルジュとして、これが花井さんかなと思っているのですけども、いろいろ使い方も教えてくれる。よろず相談のカウンターということになります。今模型では省略していますが、この背後にそれなりの本棚、あるいは書類ケース。そういったものを一応並べられるように考えているところであります。

反対側から奥から見るとこんなふうですね。とにかくこれは、エントランスのすぐ脇にあることが一つの特徴で、場合によったらここに給排水をもってきておくと、お湯を沸かしてお茶を入れてあげることもできるというコーナーになります。全体に先ほど大通りといったところを見ると、こんなイメージになるんですけども、この案、この模型は実はパターン①で作ってありますので、右手

は児童コーナー。緩やかに囲われている。その囲いの裏側を利用して、個人視聴のブースを作る。これは前々から話が出ていますけれど、図書館の中でこういう映像資料を一人で見るという需要は、どちらかといえば減っていく傾向にあります。逆にここではそれ以外の検索をしたり、いろんな需要がもっと出てくるかもしれません。その時には、ここは、当初は視聴覚コーナーと書いてもいいんですが、そのうちパソコンを持って作業する、そういうコーナーにとって変わってもいいなというふうに思っています。その一方で多分映像資料というのは、普通の家では絶対できない、つまり、グループで大画面で一つのものを見て、見ながら考えたり話し合ったり、あるいはそこまで難しいことをやらなくても一つのことをみんなで見て感動を分かち合ったりするという、そういうことは各家庭ではなかなかできない。それをやれる多目的室がこの奥にあります。どちらかというと、図書館の使命としては各家庭ではなかなかできにくいことに移っていくし、そういうものは時代とともに変わっていくものです。その変わっていくニーズにここで対応していこう、ということでもあります。それが今左手に描いてあります、視聴覚ができるようなコーナー、もちろん最初のうちはちょっと隔てが欲しいといえはできるし、要らなくなったら取るということもできます。

今この辺りに真っ白い壁面が描いてありますけれども、真っ白くするわけではなく、ここの面を利用して、新聞あるいは雑誌といったもの、何かそういう大きさの表紙をこちらに向けて架けられるような雑誌架を考えています。手に取りやすいそういう雑誌架に段々になっていくというふうに思っています。

こちら側に前からジグザグしていたのは、これですけれども、どんなことを、何を考えていたのかというと、こういうことを考えていたんですね。本を読むときに机の上に広げて読むというレベルももちろんありますけれど、そうじゃなくて、手軽なものをちょっと取ってきてソファに腰掛けて読む、というケースも多々あります。例えば小布施の町のこと知りたいと言って来た時にこういう雑誌ありますよ、こういうパンフレットありますよ、と。そのパンフレットを持ってここで手にとってしばらく読んだりするコーナーとして使える。ジグザグしている理由はなんとなく家具としてはひとつながりだけれど、一人ずつ、まったく関係のないお客さんが座っていくこともできるし、場合によってはこことここにペアの方が座って一緒に何かを広げながら見ることもできる。一つの家具でありながら、いろんな利用の仕方をできるように考えた仕組みがあります。細かいデザインは、もう少しここに肘掛のようになって物が置けるような、あるいは、本のちょっとしたことが手帳に書き写せるような、そういう、少し幅をもたせたテーブルを付けたら更に便利かなあなんてことを考えていますけれども、大きな考え方としてはこんなところですよ。

ちょっと話が二重三重になってしまいました。これが先ほど申し上げた、最初はDVDなどの個人視聴のブースになってもいいし、そのうち、それをパソコンを持ち込んだりして使う、図書館の新しい使い方に対応していく場所になったらどうか…。ここでも、一直線にバンっとなっていると、整列してみんなでエサを食べているようになってしまうのですが、ゆったり曲がっていることで、あるときは仲間二人がこう一つのものを取り囲んでみることもあれば、こういう時はすぐ隣だけど別々のお客さんが別々のことやっけていてもあんまり気にならないようなところ。これがゆっくりカーブしてくれることで、そういう、なんとなく居心地のいいところを選べるようにしようとそういったことです。さらにこの椅子はできたらちょっと大きめの椅子。これ省略していますけれど、背もたれのあるちょっと大きめの椅子です。ちょっと大きめというとは何かというと、おそらくはゆったり座れる。子どもさんとか、あるいは小柄な女性なんかだと、ちょっと詰めて詰めてという、二人で何とか座れてしまうぐらいの、そういうぐらいの大きさにしようかな…。今も、視聴覚のブースで、子どもさんがよく二人でこうやってぎゅうぎゅう入り込んで見ている。そういう使い方もできるように、完全に一人用というのではなくて、1.5人分ぐらいの感じにして、それをゆったり使うという使い道もあるし、二人でくっついて見るという使い道もあるというような。一時が万事こういう調子で、なにかの為のという要求ではなく、使い方にもいろいろ幅があるような、そういうデザインをしたいと思います。

更に通り抜けていくと、通り抜けていったところに光庭の向こうにちょっとしたコーナーが出来上がります。このちょっとしたコーナーは前から思っているんですけども、これは館の入り口手前の方とはちょっと違って、ここでは数人の人が打ち合わせをしたり、あるいはグループで何かを利用したり、あるいはもう入り口を入れてすぐの所ではなく、じっくりと落ち着いてレファレンスができるように。調べものの相談をしたり、こういうことを調べたいのだがどんな本を調べてどんなふうにしたらいいのか、など。基本的なことですが、入り口の脇でやるのではない、もうちょっと落ち着いた所でじっくりやる。それからかなり長時間そこにいても、つまり、こういうの教えてくださって入ってきてぱっと帰るっていうのではなくて、ここはしばらく30分粘っていてもいいような、そういう感じにしたい。入り口のところで粘られると他のお客さんにとってはなんだか近寄りたくなる。それでここは少し落ち着きのあるコーナーで、サービスカウンター。場合によっては、この奥の閉架書庫から本を取り出してあげることもできますし、その他諸々、奥の多目的室や、調査閲覧室の使い方と連動して、ここで専門的なアシスタントをしていただけるようなコーナーにしたい。この脇に机を二つほど置いてみました。このぐら

いの机が置ける大きさがあるんです。だいたい 90cm×1.2m から 1.5m ぐらいの範囲。木製よりは幅、長さはもうちょっと小さいけれども、奥行きのためふりある、作業のできるテーブルが二台ぐらい置けるスペースがどうやら取れそう。ここにたってのご希望でカーテンのような仮設的な授乳コーナーが欲しいというお話があったものですから、それと兼ね合わせると、二台分ぐらいかなと思うのですが。ここの使い道も実は自由なんです。ここのコーナーはそういう訳で、ボランティアの方が丸一日、そこで何かの作業をしておられても他のお客さんにとっては使い勝手に全然支障がない、そういう場所になります。

その手前に今は省略していますけれども、この中に複合トイレがある。

一応いろいろなところの寸法の考え方がありますが、特に本棚のところ。本棚のところに関しては、細かい数字が入っていますが、だいたい 1.2m ぐらいの通路をとろう。1.2m というのは、普通の図書館の、開架書庫の通路には比較的余裕がある。1m だってできないことはないのですが、車椅子の方が通り抜けて、そこにほかの方がいらしてもすり抜けることができるぐらいの幅、というので、1.2m を標準に考える。こういうことですね。これも模型で見ていただくとわかるのですが、この本棚がこの色の濃い部分は少なくとも人の背の高さを越えるぐらいの高さになる。ご要望の冊数を収めていこうと。で、いろいろ工夫をしましたが、何とかやっていくと、このあたりは、高さ 1.2m ぐらいの低い本棚に抑えられそう。もちろん、全体が 1.2m の本棚に抑えられればもっと開放的な空間ができるのはいうまでもありませんが、それは少しこれからご相談です。冊数の関係で。

今頂いている冊数 4 万冊をクリアしていこうとすると、このぐらいは普通の 1.8m の本棚が必要になります。それをずっと並べてしまいますと、本棚の向こう側というのはやはり見通しが利きません。もちろん今、本棚の背中は抜いておいてですね、本が入っていなければ向こうが見えるような本棚を計画していますけれど、そんなに長いことそこが空き放しになっているとは思えなくて、本が入れば前が見えにくくなってしまいますので、そういう意味で背の高い本棚のエリアを限定して、しかもそこに時々抜けているところを作りたいというふうに思っています。これもあとで模型をよく見ていただくとわかるんですが、まず抜けに 2 種類あります。一つは、本当に通り抜けられるというもの。それからもう一つは、視線は抜けているけれどその間に実はベンチが置いてある。こういうふうですね。このベンチが少なくとも、2 列に 1 回、こういうところに…どういうことかという、この列、この列、この列、この列。この 2 本の通路の両側の本を取ってきて、ぼんと腰掛けて中を見ることができる。これがあると、ここのベンチへこの辺の人たちが、これがあればこの辺が使える。ということで、本を読むときは皆さんもご経験あると思うのですが、完全にこれ

とこれって分かっている、ぱっと机のところに持ってくることもあるかもしれませんが、そうではなく、これかなあこれかなあ、とってその場で開いて見ることがありますよね。小型の本であれば、立ったままでもさして苦になりませんが、大きな本。百科事典みたいなものになりますと、ちょっと広げてみたいという感じにもなります。もちろん大人の方であればこういう 1.2m の低めの本棚の場合には本棚の上でそれでもできるのですけれど、こういう背の高い部分ではやりにくい。ということで、ちょっと腰をおろしてそういうことができるコーナーを入れて、それと併せて視線の抜け道。圧迫感を少し減ずる効果がこういうところにはあるのではないかと考えています。

これ見ていただくと分かりますが、何とか4万冊を割り振ってみますと、この東側のコーナー、南側のこの個人デスクのあたり。この辺りはずっと低めの本棚で何とかすることはできる。この真ん中の部分が、ちょっと変な感じ、人の背より高いぐらいの、いわゆる箆笥の高さみたいな感じのものになる。現在は 90cm の1段あたり約 33冊でカウントをしています。例えば、1段 90cm の中に 33冊入れていきますと、1冊あたりは 3cm 弱になるのですけれども、3cm 弱なんて本はそんなにいっぱいはない。1冊で 3cm もある本はなかなかないですから、そう考えてみると、実際は 33冊以上入ると思いますけれども、一応計算の根拠として1段 33冊として計算しました。この本棚、三角にずっと前から並んでいるのですけれども、これは僕が前からやりたいことで、これをずっと並べると、これで領域をさっき言ったように作れるということと併せて、こちらの方向はものすごく見通しがよくなる。この大通りと言ったところから、基本的には全部向こうまで抜けて見えます。この突き当たりの窓も見えます。この本棚が向こう側に並んでいるところに明かりが見えるというのはものすごく開放感がある。視界として向こうが閉まっているのとそうでないのでは大違いですので、こういう形で、ここを通る人の目が奥まで届いていくと光も感じるということにしたいと思っている。

これが中高生の部分のイメージです。中高生の部分のイメージを楕円形のテーブルでありたいと思っている理由があります。もちろん8人ぐらい座れる長机だって全然問題はないわけですが、そうするとだいたい 2.4m × 奥行き方向で 90 cm かももう少し、1.2m くらい必要になるだろうと思います。皆さんの普通経験される大きなテーブルというのは 90 cm × 180 cm くらい。畳一枚分ぐらいが普通なので、これが 1.2m × 2.4m になりますと、僕の事務所の僕の使っている机がその大きさなんですけれども、相当大きな机になってしまいます。相当大きな机をいろいろ動かすのは、重さも重くなるのもうちょっと軽量化したい。それと併せて、ここでは8人が8人、バラバラに仕事をしているだけ、本を読んでいるだけではなくて、場合によってはグループで、中高生がグルー

プ学習で何かをやる。ということもあるので、例えばこういうところぐるっと取り囲んでやりますと、距離が 1.2m、けっこう離れた距離。向こう側とやり取りするのが遠いぐらい離れていますけれども、そうならないで済む形で、何人かの共同作業ができる。何よりもこの、一つのテーブルの形が柔らかい形になりますから、8人全員がグループになった時にも、一つの話題で取り囲んだ形になる。4人が直線的に横並びになると、もう向こうの顔が見えなくなってしまう。しかしこれだと結構見えるところで並んでいますから、みんなで一つの話題で何かができる。実際にはこういう、角が四角になっていないことで、こういう斜め配置をした時に通り抜けの有効寸法がそれだけゆとりを取ることができる。そういう副産物もある。

ここはくつろぎコーナーと言っているところです。先ほどのパターン①の場合には大人の読書コーナーと中高生の読書コーナーが集まってきたこの頂点の部分にこれがあります。どちらにとっても休憩の場所になっています。そして、この一番外の景色も見えるこの突端の部分ですが、ここには思い思いに座れるような、ちょっと行儀は悪いかもしれないけれども、ソファの上で少しリラックスした形でものを読んだり、或いは場合によっては多少のおしゃべりをしたりすることができるような、そういう休憩のコーナーというふうに位置付けています。ですから目の前のこういう低い段にずっと本が入っていますから、ここから取り出してきて、こちら辺にあるものを読みながらおしゃべりしたりすることができるようなそういうイメージで作っています。

これが一般図書コーナーのところに置こうと思っている机です。この机は 70 cm×1.3m ぐらいの割合大きな机を予定しています。それなりにゆったりした、60 cmかできれば 70 cm。で、こちらはできれば 1.3m、130 cmぐらいの机を持ってくるつもりです。これから 50 cm。こちら側とこちら側から座って気にならないくらい、こちらとこちらから向かい合って気にならないくらいの大きさになっている。そして二人の間をゆるく遮断するために、ここにタップライティングを付けようと思っています。このタップライトがここに座った時にこうあって、こうなる。そうすると、この二人は一つの机を対角線で、シェアしているんですけども、お互いにはあまり気にならない。だから、最初に一人座っていても、もう一人が赤の他人でも気兼ねなく座れるテーブルにしたい。

全体をそれだけで構成するという方法もあるんですが、大人の方だって複数で来ることもあるでしょうから、少し広めのテーブルで、4人バラバラに仕事をするのももちろんできるけど、場合によってはグループでお使いいただけるような、そういうのを少し混ぜてみようと考えています。

これは本棚のこちら側、南側に並べる。南側のレーンには先ほども言いました少し低めの視線の抜けやすい本棚を並べようと思っています。この端にちょ

こんちょこんとついているこれは、腰をおろすことも、或いはちょっと本を置いておくこともできるようなベンチになっていまして、ここに腰をおろして本を選ぶこともできるというふうに考えています。

そしてこの子どもさんのコーナーですけれども、一応今カウントしているのが、絵本 5000 冊、それから紙芝居が 500 冊。それを配架できる長さを計算しています。僕が最初に描いたものに比べてもっと長いものが必要になりましたので、ここは長くなっています。前のものをご記憶の方がいらっしゃると思いますが、そのあおりを食って、別にあった新聞架というのがここに合体してあります。別にもう一つ、新聞のために置いてあったグニャグニャしたものをこちら側に統合しました。裏側は全部お子さんのために使います。で、向こう側はさっき言ったように AV とか、新聞雑誌。それで取り囲まれたこの中。床をここだけは靴を脱いで上がるような床仕上げにしたいと思っていまして、ここからは保存する桜の木の木陰のような、これ、光庭と呼んでいますけれど、光がここに降ってくる、そういう庭がある。光庭を囲むようにして、床の上に直接座って滞在することができる。そういうコーナーにしたいと思っています。もしかしたら少し小さな座卓とかテーブルのようなものがここに必要になるかもしれません。

この両端にはお子さん達がランドセル、それから靴袋みたいなものをこういうところに、脱いだ靴を入れて置けるようなコーナーが両脇に設けられています。

今模型でお目にかけましたけれども、それらを作ってみた時の模型の写真というのは実はちょっと上から見ているものですから、本当の人間の目線に立ったところからはなっていない。そういう目線にたったところからの画を描いてみました。これがエントランスからサービスカウンター。入り口入りますとすぐにコンシェルジュカウンターがあります。そこから奥を見ると、新聞や雑誌の置いてあるところ、AVがあるところ、そして奥のほうがこう見通せるような感じ。奥にあるここがもう一つのサービスカウンターです。この図書館、なんとなくイメージがつかみにくいかもかもしれませんが、正直言うとあまり大きな空間ではないんです。館内入ったところからここまで、このカウンターからこのカウンターまでは 20m ぐらいです。では実際、普通の図書館で僕が言っているように入り口のすぐ近くに受付のカウンターがなくて、奥にカウンターがある図書館はどんな図書館がありますか？というお尋ねがありました。ここに資料では出していませんが、世の中にいっぱいあります。むしろ、最近では入ってすぐのところにカウンターがあるほうが少ない。かえってちょっと奥にある、活動の中心のところでのいろんな相談にのるという概念になっています。そここの奥にあるサービスカウンターでも僕は十分に機能すると思うんですけど、

最初にお話したように今までこの図書館で入り口の所でお声をかけてこられたということと、どっちもできた方がいいだろうということで、今はコンシェルジュカウンターとこちらの…。そして場合によってはこちらの方のウエイトが高くなることもありますし、或いは場合によってはこちらの方がややウエイトが高くなることもある。それは使いながら、どういうふうにもともというふうに考えています。

さらに少し入っていきますと雑誌架の、こちらが子どものコーナーですね。少し緩やかに遮断されています。ここを通り抜けて大通りに本棚があります。そしてこれはコンシェルジュカウンターの方から今、南東方向を見る。ここがグラウンドです。この窓側に近いところの本棚の方は低くしておく。

これはサービスカウンターの方から中高生のエリアの方を見ているところです。本棚がこう並んでいます。手前にトイレがあります。この向こうに、中高生のゾーンから一番頂点のくつろぎのコーナーの方までが、なんとなくこう目線がいく。こう通り抜ける感じになります。

今度はサービスカウンターから右の方。つまり、エントランス方向を見ている。この画だとサービスカウンターの奥、さっきのボランティアスペースの辺りから見ている画になっているので、コンシェルジュカウンターが見えていませんが、サービスカウンターのこちらに立つとコンシェルジュカウンターと目線が合うように設計がされています。この辺りからは児童コーナーの奥の様子も窺い知ることができます。

以上がだいたい今日の説明です。あとは見ながらやった方が分かりやすいと思いますので、模型の所へ行って、そこで質問を受け付けようかと思えます。

(委員長) 先生ありがとうございました。それじゃあ皆さん、立って頂いて模型のところへ。5分くらいの時間で、質問等あったら答えてもらうようにしたいと思います。

(移動)

(古 谷) 普段ここから人が出入りするとは思っていません。そういう何か行事や企画の時には、ここを開けるとこちら辺とこうスムーズに出て行ける扉を作りました。もうひとつここに。従来ここに入出口があるといいなど。逆に言うと全部戸締りをされて最後に、館の方が閉めて行く扉をどれにするかという考えがあるんですが、ひとつはあれという考え方もありますけど、もうひとつはここにつけた通用口ですね。通用口がここにありまして、こちら側に館員の方の休憩室。あるいはサーバーールーム。ここが所謂事務作業を行う作業室。これが時と場合によってはボランティアの方もお使い頂くことが出来るかも知れませんが、普通は図書の受け入れですとか、本の修理ですとか、ダンボールに入ったまま開いたままにしておくとか、表ではちょっとやりにくい作業をする部屋が

ここです。そして、これは前から調整済みの貴重な資料をここに入れておいて、それに基づいた研究作業がグループで行われる研究室みたいな所で机が入りません。これが前々から出ている多目的室。半分に分けて 2 つの部屋でも使えるようになっていました。今、この模型では窓を省略していますが、ここにもここにも窓を開けようと思っています。まだ、窓の形が完全に決まっていないので今日は省略しますが、ここにも、あそこにも、窓は開けます。ここは閉架図書で、今、かたまりで書いていますけれど、こういう風に集密型の書架をここに入れて、40,000 冊。これは空調などに使う機械。それから、この部分はここで使う椅子などをしまうための収納。まあ、この為だけじゃなくて色々使えます。

(委員長) 質問は？

(古 谷) これですけど、これご要望があるということでさっとカーテンを引き、授乳かなんかをするに使える所なんですけど、私どもの考え方は割合一般的な考え方もありますが、ここに多目的のお手洗いを作って、そこで、着替えだとかオムツ交換その他諸々の事に対応出来るように、という風に考えているんです。けれども、「お手洗いの中でそういうのをするのはどうも…」というお話があって、ここにつけました。ただ、ここは皆さんが考えるようなお手洗いの雰囲気にはならないようなつもりで本当に気持ちのいい部屋みたいになるように今、設計しているんですけど、それとどちらでもお使い頂けるという事になると思います。

(委 員) すみません。ここはお母さん 1 人だけしか授乳出来ませんか？

(古 谷) その大きさですとしようと思えば 2 人くらい

(委 員) 2 人くらいね。そうですか。後、授乳をしながらオムツ交換できる所が、病院とか行くとよくあるんですけども。

(古 谷) オムツ交換はやっぱりこちらでしていただいた方がよろしいかと思います。汚物やなんかを流す可能性もありますし。

(委 員) じゃあここはお話しながら授乳出来るような、そのくらいの広さが欲しいと思います。

(古 谷) はい。それはもしご要望であれば。何十人って言われると出来ませんが、2 人くらいなら、大丈夫だと思います。

(委 員) それともう 1 つはここを半分に切るわけですが、それぞれに鍵が必要なんですけど、それは出来ますか？

(古 谷) はい。もちろん出来ます。

(委 員) 分からないのはこの引き戸なんですけど、下から上までガラスになっていて…。

(古 谷) はい。完全に素通しのガラスにするか、実は、気配は見えているけど、中は完全に見えるようにするかどうかはまた相談しようと思っています。今、僕の

イメージでは、この模型はこちらから写真撮った時に完全に見えるように全部透明に出来ているんだけど、実は二重の、ガラスでもなくて、ポリカーボネットと言って馬が蹴飛ばしても割れない、競馬のパドックのここの所に使っている非常に軽量の板があるんです。中空の板になっていまして、向こうで人の気配はして何か使っているなという事は分かるんだけど、直接あからさまには見えない。光は通すけれど、直接視線は会わない、そういう材料でするのがいいのではないかと。さらに加えて全く暗くしたいと。どうしても必要ならば、もう一度遮光の為のカーテンが必要かという風に考えております。

(委員) 何か、童話の読み聞かせとか、そういう雰囲気を作り立てる為に蝋燭の光でやりたいとか、そういう事がありますので、きっと遮光の設備は必要かと思うんですが。それと、それぞれの入り口。二部屋で利用した場合は、こちら側とこちら側への入り口はそれぞれドアがある訳ですよね。

(古谷) あります。これ実は、何枚かのドアで、場合によったらガラガラっと全部開けて置くようにしておこうかなと思っているんです。閉めようと思えば全部閉められるますけれど、開けようと思えばこのうちの半分くらいは、全部開けてしまう事が出来るというくらいにしよう。昔の座敷の間にあった襖を思い出して頂くと良いんですが、例えば、二間分あったら真ん中が一間分開きますよね。開放的に使う時にはそういう感じも出来るというスタイルが良いんじゃないかなと思っています。一箇所のドアでバシャっと閉めるのではなくて…。こちらと同じ事を考えています。

(委員) 遮光の場合は、カーテンでもいいと思うんですけど、遮音の場合はどういう風に考えていますか？

(古谷) これは程々の遮音性くらいにしか考えていません。よほど、こちら側に迷惑になるような音が出るような事をやる、何かを鑑賞するとしますよね。そうしたら、時間を考えて頂くか、もしくはある程度以上になった時は北斎ホールをお使い頂くか、それはケース・バイ・ケースで。ただ、この全体会で何回も申し上げましたけど、いつもいつも、全く違う人達が同時に違うことが出来るように、好きな事が出来るように、と考えるとどんどん重装備になっていってお金も掛かるし不自由だし、そこは少し柔軟に「じゃあ、時間を分けて考えましょう」とか「何曜日のこの時にはお子さんたちが大声をあげてもいい」とかあるいはその逆も。というような運用をして頂くとずっと経済的に使えると思います。だから、音が一寸も漏れちゃいけないというような事は難しいと思います。

せっかくですから、どうして2案じゃなくてこっちの模型を作った方の1案がお勧めかという事をちょっと申し上げます。元からここに子どもさんのコーナーがあるのがいいなあと思っていたんですが、まず、目が行き届きやすい場

所にあるというのと、トイレにも近いし、何かがあってもすぐ対応できる所にあるという事がひとつですね。大通りですから、比較的他のお客さんが静かに読んでいる所の近くではないという事があるのである程度お子さんたちが声を出していたり、お行儀が悪くてもそれほど気にならないという事もあります。それと今度使われる日常の時間帯ですが、ご高齢の方、大人の方、もちろん夜に来られる方もいらっしゃいますけど、割合日中の利用が多い世代になりますね。そういう方々にとっては、この南側の大人の読書コーナーというのもひとつは新しいかなと言う風に思っています。もちろんだって日当たりのいい所が子どもじゃないんだらうという事も何回も言われているんですが、それでも、この場合には直射日光が中にさんさんと差し込むようでは具合が悪いので、ここは庇が出ております。夏場の日差しはもちろんですが、冬場の日差しもある程度までは届きません。本当に窓際の所までになると思います。で、そうになると人間の目ってというのは一番明るいついていうのは逆に…窓際の一線は明るくなるのですが、ちょっと入った所は暗がりを感じちゃうんですね。それに比べるとここは、一日中木に当たった光が入り込んでくれますから、直射日光は差し込まないんですが割合安定した明かりで、一日中明るさを楽しめる場所になる。逆に言うとこの桜はよほど強いライトアップでもしない限り、夜になるとここはやっぱり暗い場所になってきます。だからここに比較的夜までお使いになるような大人のコーナーを設けるよりは、日中の時間帯の方が多いと考えられる子どもの方が合理的だなと思って僕はここをご提案しているんです。それと、この二つの辺が静かな状態で一応キープできますので。

(委員長) じゃあ、質問よろしければ…。

(委員) すみません。来館者が飲み物を飲む場所は、こちら辺になる訳ですか？

(古谷) それはどういう運営方針にするかによります。私が最初に提案したのはサービスカウンターがここに集中した時には、近くでお茶も沸かせてコーヒーも飲めるようにして、このコーナーに限ってはいつでも皆さんが本を読むのにくたびれたら、ここで集まってきてここでお茶を飲んだらどうですかというものでした。ですが、今それが少し失われつつあります。事務の機能も兼ねてお湯が沸かせたり、そういう機能をここに集約していたのですが…。休憩室の中には館員の方のがありますけれどこちらには本当に簡易な給排水を設けておいて、これは本当に館の運営方針ですが、お客さんに一杯お茶を出して差し上げるような感じでいこうと言うのであればやれなくはない、という状態を今考えました。

(委員) 一般の来館者からしますとね、職員の方少人数でお忙しい中、手を煩わせるというのは考えていないですね。

(古谷) セルフサービスって事？

(委 員) はい。当初からの若いお母さん方の意見は、疲れた時に久しぶりに会って情報交換の為に、お茶を飲みながらちょっと小声でも話し合いが出来るそういうコーナーが欲しいという事で、このコーヒーコーナーというのが割合と力入れられてきたんですね。で、運営部会の中で話し合ってきてここにその場所が設けられないなら、ここから出て町民サロンがありますよね。あそこを利用するという感じで、町民サロンをもうちょっと机を置いたり仕切りをつけたり改築して頂いて、そういう所に持っていってもどうかしら？という話し合いは随分深められているんですが…。

(古 谷) あの、もし、今のような割合限定的なお仲間が来てそういう風にお茶を飲みながら話しましょうって事でしたら、やっぱり僕は最初に考えたここにこういう場所を作っておくのがいいと思います。このボランティアが作業に使う事も出来るテーブルをさっき話しましたが、全体ではどういう風にするかは別として、この辺りではお茶飲んでも構わないっていう、そういうルール作り方もあると思うんですね。

(委 員) やっぱり、それには飲料の種類も色々あると思うんですが、自動販売機を置くとか、そういう形が一番手軽じゃないかと思うんですけどね。そうしますと、この中はちょっとね…。

(古 谷) 自動販売機をこの中に置くというのは考えものかなと思いますね。というのは、そういうがあると、ある人がここなら飲んでいいって飲んでいて、皆飲みたくなって、皆どこへでも持って行きたくなってしまいます。ちょっと手を掛けてポットから何かしないとお茶やコーヒーが入らないくらいのもんじゃないと。手軽な自動販売機をこの中に置いてしまいますと、どこでも飲んでいい事になってしまうような気がします。そうじゃない飲みたくない人が断りにくい感じになっていくんですね。色んな方がいらっしゃると思うんですよ。仲間であったり、ボランティアであったり、館の運営そのものに関わっていらっしゃるような人達が、お茶を飲みながら相談をすると。ひとつは、ここの作業室の中ならば、何をしても頂いても。例えば、ある時はサンドイッチ食べながら相談する事も出来ます。もしかしたら、この辺りは、一般の人は、セルフですけど自分でお茶飲んでもいいですよって事。もし、管理運営方法でそれでいいって事になれば、事前にそういう場所を作り上げておくというのは悪いことじゃないと思います。で、やたらそれがめちゃくちゃにならないようにここにサービスカウンターがあるので、皆が勝手に使って使えばなしになるというのは防げるかなと思います。

(委 員) 今の話聞いていると、やっぱり、色々オーダーがあったんだけど、それがどこかに集約されてないんですよ。ここで話が拡大しているから無理なんです。だから、利用時間にしても例えば、当初は 6 時までやるとかある考えで 8

時までやるとか、何曜日だけやるとか、そういう、決めがないんですよ。始めから、運営していくに向ける。そのうえ、皆の意見を聞きっぱなしになっているから、いつまで経ったってそういう話になってしまっただけ。

- (古 谷) まあ、だけど、こういう事、使い方もあるっていう例をお聞かせしておけば、ある程度それに対しての用意をしておくっていうのは…。
- (委 員) 今、仰った話、9月、8月の時からずっとありますよ。
- (古 谷) ええ、だから、僕の最初の案にもあったじゃないですか。これ、段々話し合っていていくあいだでなくなってきただけで…。
- (委 員) 必ず、こういう事やるには提言があるんですね。お金の問題もありますし、広さの問題もありますし、土地の大きさもある。やり方の問題もあるし、やっぱりそういうのを前提に話をしないから、こういう話だけで終始しちゃうんじゃないかなと思うんですね。だから、そのこの所は、これから運営していく人たちがね、皆さんの意見をもういっぺん集約して、こうならこうしようとか。例えば、障害者の車ね、曲がれないんじゃないか、ターンが出来ないんじゃないかとか、よほどの障害者だったら家族がついてくるはずですよ。障害者マークがついた人ならほとんどそんな事できると思うんです。もし、出来なかったらちょっと連絡貰えば、職員がターンしてあげればいいんですよ。僕はそういうものだと思っています。だから、話の中の内容についてはね、その辺はきっちりしないといつまで経っても話が纏まらない。今の話は元に戻っているんですね。カフェがなくちゃいけないとか。
- (古 谷) そうですね。
- (委 員) どんどん戻っているんですよ。
- (委員長) 運営部会ではね、それはしない事に決まったんです。
- (委 員) 決まったんでしょ？
- (委員長) 今、また出たんです。だから、たまたま、知らなくてそういう風になっちゃったので、知らない時の…。
- (委 員) 例えば、理由を考えてね、こっちの方が大事だとか、こっちの方が大事だとか、優先順位をつけてやったなら分かるけど、そうじゃないからね。土台、この話だけじゃなくてね、この間も授乳室の話もあったけど、どっちが大事か、やっぱり…。
- (古 谷) そうですね。
- (委 員) 業者の問題とか、現状の利用者の問題とか、将来の管理業者の問題とか。将来、おそらく我々みたいな年輩者がうんと多くなってきますよね。すると、新聞読む人も増えてくるかも知れない。今の新聞の件数より増やさなくてはいけないという状況が出てくるかもしれない。むしろ、そういう時にどういった対応が出来るか考える方がよろしい。その話で堂々巡りで来ていてもね…。

- (委員) すみません。私、欠席していたのかも知れません。じゃあ、運営部会では、町民サロンを改築して使うので、ここへは置かないという事に決定したんですか？
- (委員) コーヒーを飲んだり、それから、そういうものをやると匂いが出て行っちゃうと。集中している人に、コーヒーの香りがご迷惑になるかもしれないっていうような事で。もし、どうしても飲みたい人がいたら、北斎ホールの町民サロンがあるので、そちらで。あそこには、自販機もありますし、そちらで対応してもらったらどうかねってそういうお話が出ました。
- (委員) じゃあ、こちらの方はコーヒーコーナーは設けないでそちらで集約するって決定した訳なんですね。
- (委員) そうなんです。決定ではないんですが、そういう方向にしていきたいと思いますというお話で。
- (委員) そうですか。分かりました。
- (館長) すみません、横から入っちゃって。給湯があれば将来的に使えるかも知れないというのは、残しておくべきだと思うんですね。建って最初の1年は色んなことをやってみた方がいいと思いますし。さっき、仰っていた給湯もそうですけど、お母さんたちが我が家っぽく、ちょっとお菓子を出した時にお茶を出すとか、そういうシステムをここで運営できると思うんですよ。ただ、それをこれからどういう風にするかはまだ、僕の方から発表していませんけど。そういう事の可能性、こちらで先生が先程おっしゃられたように、こっちに給湯があるっていうのはすごくベストな考え方で、運営上はこっちを優先していった方が、ここでやるやらないを決めるんじゃないかと、どういうものをここに残せるのか、邪魔にならない、それと、予算的なものはとっておくべきだと思います。
- (委員) 温泉の休憩室じゃないけど、お湯を沸かしてポットに入れて置いておいてもいいじゃない。全部が全部、周りであってね、自分のご家庭考えてもいいと思うよ。これは、本棚ですか？これは将来的には移動出来るんですか？
- (古谷) 移動は出来ます。ただ、こっちの机ほど簡単に移動は出来ません。一応地震の時の転倒防止しますんで、床に案下してしまいます。ただ、ボルトをはずせば、ちょっとした工事を伴えば、動かすことが出来る。
- (委員) 今の話、10年20年この意思がね、将来的にこれでいいのかって事は当然出てくるんですね。場合によって、動かさなくちゃいけないシーンも出てくるから、これ、固定されちゃうとやっぱり、具合悪くなってなっちゃうんですよ。
- (古谷) ちょっとした工事を伴うんですが、それだけ何十年もそれがあった床の下はどうなっているんだって事もありますから、多少の補修工事は必要ですけどね、動かないわけじゃない。この柱は動きません。
- (委員) すみません。本箱の下に設備の、取り出し口っていうんですか？それが付く

というような話をお伺いしたんですね、建設部会の時に。

(古 谷) LANケーブルとかそういう種類の事？

(委 員) はい。そうすると、もうこの場所は、本棚の位置というのは動かなくなっちゃうのかなと。

(古 谷) 下から電気を取り出す、特に弱電性のLANケーブルだとか、電源とかいくつかの場所に入れておくと思うんですよどちらにしても。将来動かせるといっても数センチの単位で微妙に動かせるとは限りません。せめて、別の所でその穴を踏んで頂ければ、同じように接続が出来るよ。

(委 員) LANケーブルをテープにする事は出来ないんですか？

(古 谷) テープのようにする事も出来ます。

(委 員) それはお金掛かるんですか？今、先生が考えられている事と違うって事は。

(古 谷) 床仕上げによってはお金が掛かるようになります。

(委 員) じゃあ、それも考えて、是非検討していただいた方がいいですね。

(古 谷) ただ、LANケーブルに関して言えば、いずれ軽量化の方に進む。これは無線LANでもいい訳だから。最後まで必要なのは電源なんですけれども、そういう意味では、電源は何かと必要な訳で、何をどうするにしても、そうするとある単位で電源は供給しておくよ。電源のケーブルはフラットタイプにする事は今の段階では出来ませんから、そうするとやっぱりどこか床に取り出し口があって、日頃そういうのがそこら辺に出ていて邪魔にならないように出来るだけ本箱の下にそれが入り込んで隠れているようにするのが良いんじゃないかという風に思うんですよ。それを、ポイントを上手く使って頂ければ、ある程度回転できる、模様替えできると。

(委 員) あの、通気の事なんですけど。夏・冬以外の間中期については、自然通気になるべくやるって言うって言うけど、窓は、大体どれくらいどこまで開閉出来るんですか？

(古 谷) これらのうちの大雑把に言えば3分の1ですけど、もしかしたら、4分の1くらいになるかも知れないけど、開くように考えています。この三辺に関してはちょっと大雑把です。まだ厳密には言えません。柱も実はこの中に入れなきゃいけませんから、柱があつて壁があつて固定する部分もあります。素通しになって向こうが見えているけれど開かない所も残ります。

(委 員) 壁の中にトラスも入るんですよね？

(古 谷) 入ります。トラス的な働きをする物が入ります。あの、ですからそれらにやっぱり全くクリアに見えて素通しの所が3分の1くらい、それから、構造体とかそういうもので使うのが3分の1くらい、後の3分の1くらいは場合によっては開け閉め出来るんじゃないかと。今は思っています。

(委 員) その壁あての鉄骨はどのくらいなんですか？

- (古 谷) 鉄骨…これらは直径 20cm から 25cm。で、ここら辺に入ってくる角材も大体同じように 25cm。
- (委 員) 25cm×25cm 角だね。
- (古 谷) もっとあります。それを包む場合、30cm くらいになります。それでも、コンクリートなどでやる分にははるかに小さい具材で済みます。そして、完全な平屋にしたのも結局こういう所に柱を出来るだけ小さく済むようにして今鉄骨造では大体スパンって組むんですけど、柱から柱までが大体 12m。最大じゃないんですがそれを超えたら又ややこしい計算をして申請に時間も掛かります。限界値が 12m の所にあり、今、大体 12m くらい。そうすると、皆さんが使えるスペースの中には僕が考える限りは、コンクリートよりも木造よりも何よりも柱の少ないっていう事は制約の少ない平面が出来ているはずです。中には 3 本しか柱が立っていませんから。
- (委 員) これの要するに浮くようになっているところもそうですか？
- (古 谷) いや、それなりの間隔で柱が立っています。
- (委 員) という事は、針金ですね？
- (古 谷) ええ、そうです。
- (委 員) トイレは独立しているんですよね？トイレのタンクはどこに持っていくんですか？
- (古 谷) これはここにこういう風に屋根が掛かりますんで、ここからポンと抜いてこの平たい屋根の上に置く事になるんじゃないかと、今は考えております。三角の屋根はこういう形で掛かりますよね？そうすると、ここ、真上に抜くと三角ではない所に出る計算です。
- (委 員) すみません。本棚を将来的に動かせるか動かせないかっていう話が、この間の運営部会でもあって。その LAN ケーブルだけじゃなくて暖房の排気口も本棚の間に入る案があるって話があったんですけども、そういう暖房の排気口がこの辺にあると、やはり、いくら動かせるとはいえ、家具の動かせる範囲が制限されてしまうような気がするんですけど、
- (古 谷) それも工事が必要なんですね。ですから、普通の人が箆笥を動かすようにはいきません。本棚は動きますけど、動かしたらその暖房の為の排気口は別のものので作り直すなり…。
- (委 員) その、ボルトを外して閉め直す以外に暖房の接続工事も空調の配線の見直しとか、し直しが必要になると？
- (古 谷) はい。
- (委 員) 大掛りですね。
- (古 谷) 大掛りっていうことではないですけどね。
- (八 木) 今、空調に関しては一番構造と複雑に絡み合ってるので、本当に本棚の下か

ら噴き出すのがいいか、それとも床にポツポツと噴き出すのがいいか、それを検討中です。

(古 谷) 後はその本棚の改変っていうのがどのくらいの現実味があって何十年後なのか、20年後なのか、そしてそれが増えていくのか。僕は増える方向はないと思いますけど。むしろ、紙のそういうものは減っていく方向になるので、ある程度撤去するとか、そういう事になるかと思うのですが、撤去した時に今の配線や空調の出口があったとすれば、その時にそれに代わるもの。例えば、ベンチみたいなものでその吹き出し口を作るとか、そういった事で対外は…これはでたらめにすごく変わるって考え難いと思うんですね。本棚の量が大きく減るかもしれないと思うけど、大きく減るかあるいは半分くらいで済むようになるとか、そういう事なんじゃないかと思います。

(委 員) 素人感覚だと、排気口が周りがあった方が空気が流れるんじゃないかなというのと、もし、そうだとしたら、この中で本棚並べ替え自由とかそういう LAN ケーブル程度の配線をするのであれば、どうしたのかなって思っていたんです。

(古 谷) これは、無しには出来ないと思います。物の道理として、周りで吹いてここで吸うか、ここで吹いて周りで吸うかしないと周りが均一になっていかないので、真ん中がないって事は絶対無いんですよ。それを本棚に組み込むのがいいか、それと関係なくこういう所に出すのがいいかは、さっき八木が言った通り検討中です。専門の方で。

(委 員) さっきの工事を伴うという話ですが、先生方が最初仰っていた、なにか区切りを打った時に、動かないものを作っちゃうと全部を壊さなきゃいけないと。その点で見てここで工事をするのは事実なのかな、という考え方でいいんですか。

(古 谷) そうです。この中が、普通だったら壁が入ったり、机が入ったり、部屋に分かれたりする訳ですが、それをしないと。

(委 員) 動かせるって意味で理解すればいい？

(古 谷) はい。そうです。毎日のように動かせる物から、1年1回くらいなら動かしてもいいやというものから、10年に1回くらい、大掛りだけど、やってもいいというものまであると思います。およそ、一般常識として、設備の機器というのはおおよその物は20年経つと全部取り替えられます。今ちょっと寿命が長くなっているのもありますが、エアコンだとかそういうものは20年経つと総取替えになりますから、20年後にはかなり大きな模様替えがあってもいいと思います。

(委 員) 駅前がもしかしたら将来的に開拓が進んだりして、ここにある建物がみなどこかにいったりして全部無くなってしまった時には、このバランスはどういう見方をすれば良いんですか？ここ、木が、ずーっとまっすぐある訳ですね？景観的になんていうか…。

(古 谷) 一応考えています。これ実は町長さんからも言われて、将来こちら側がかなり全面的な顔になった時にどうなるかという事で。僕はここに入り口を作るつもりはないんですけれども、ここにどうしても閉鎖的なものが必要で、将来こっちがなくなったからといって、この機能を全部こっちに持っていくというのはないと思うんですね。空間的広がりが景色になるので。そうするとどのみち図書館として必要になるある程度、箱の部分があるとすれば、ここにあって、そして両側に人が入ってきて、自然に導けるようにはなると思っています。その時の事もあってここにひとつ口を作っておけばこちら辺を少し模様替えるところがもうひとつの入り口になります。それと、さっき言った、模型では省略していますが、引き戸を入れておこうかと思っているんですが、この引き戸で開けるこの部分ももしかしたら、将来は出入りをするとき、これまた多少の工事を必要としますけど、ここからも、人が入れるようにすると。それで、ここの窓をなんで僕が決めかねているかと言うと、裏の窓だったら気楽に決めるんですが裏にならないと思っているので、これが外から見てもかわいらしくて小布施に合った何かいい窓にしたいなと思って悪戦苦闘しているんです。そこから夜になると光がぼっともれたりしている状態もそれが景色になるような、そういうものにしたいと思っています。

(委 員) 今言われたような事を、これから運営をしていく人達がどういうコンセプトでどういう風に進めるかを考えた時に、やっぱり、形は改革しても取り入れる事を考えていかなきゃだめだね。例えばここの公民館の使い方にしてもね、やっぱり駄目だったから駄目って言うんじゃないでね。

(古 谷) 総合的にやっぱり。

(委 員) サービスちゃんとしてもっているんだから。

(古 谷) サービス…庁舎を持っているんだから、全体使ってここに使えるものはここによってやっぱり全体的に見てね。

(委 員) 今、とりあえず、こうなっちゃったので、やっぱりそのクリエイターの思想的な事にね。与えられた要求の中でどうやっていくかっていうのは、これからの問題だよ。本当に大事な。

(古 谷) でも、さっきの事でいえば、水はここにプラスαしたんですよ。例えばこちら辺にしかなかった物を。まあそれは、給排水をこちら側に纏めておいた方が経済的だと最初にお話ししたんですが、トイレでなければ、この小さな流しの給排水くらいなら、そこに行って帰ってくる管が増えても、そんなにびっくりする程の費用にもならないから、それで、出しておこうという。

(委 員) 茅野は、カウンターの下にこうやって開ける戸ありましたっけ？そういう感覚ですか？

(古 谷) それは、そういう感覚でも出来ますし、もうちょっと頻繁に使うのであれば、

向こう側から見るとふた無しっていうのもありますね。

(委員) もし、こういう問題があるとすればね、私はここに座りたいなと思うんですよね、2の案はちょっと…。

(古谷) だから、ここはもう、100% 24時間お子さんたちだけが使う場所か考えて、ある時は大人が使わせてもらう時間作ってよって事も出来ると思うんです。

(委員) 現実に来ないんだから、子ども。

(古谷) まあ、そうとは限らないんだけど。2歳の子が来るかも知れないんだけど。

(委員) そうそう。あれも子どもにとって、魅力的なんですよ。あそこへ行きたいという。

(委員) ね、角の三角の角になってる所にね。

(委員) それで、ソファーに絶対に登りたい子がいると思う。

(古谷) だからそれも。ここにお母さんがお子さんを連れていっても、絵本借りてここで読んでいても、全然いいですよ。ただ、一応場所が決まっていて、ここから靴脱いで上がるのよって言える場所は、ある程度限定されていたほうがやりやすい。ここではこうですよって言えるだけの事で、実はこの空間を、大人の人達が入ったらいけませんってことじゃなくて。

(委員) でも、この空間が学びを重視するんだったら、入ってこない方がいいと思いますね。幼児教育を勉強する生徒がもしいたら、逆にここまで入っていても、コミュニケーションとった方が、面白いと思う。

(委員) やっぱり、議会の時に保育園の時間延長の話があったように、どうせもうじき変わってくる訳でしょ？それに一つ一つ対応していかないと。まあ、自由に厳しく子供なりにね。これから新しいのが出来れば、たくさん来てくれるかも知れないけど、

(古谷) このくらいの時間が私のお気に入りの時間だっていうくらいなら、重くないし、その間私はここにいて読んでるのが好きとか、そういう感じに上手く使い分けて頂けるといいと。どこはこれだけなきゃ駄目だっていう図書館は成り立たないと思います。どこにでも、どの人が混ざっていても、皆がお互いに気持ちよくいられるなら、別に混ざっていても構わないってくらいに考えた方がいいと思いますけど。

(委員) その関連でこのヤングアダルトと一般の図書という風に一応図面では分けられているんですけど、別に単にこのテーブルはヤングアダルトだけだよって、こうやって静かに読みたいっていう大人にこの配置は向いているだろうっていう感じでこうなっている訳で、ここにいるのが間違いとか、ヤングアダルトに座っちゃいけないとかそういう訳ではない？

(古谷) ありません。むしろ使われ方のイメージにあわせた家具をそれぞれに作って、それを使い道に応じて使い分けてもらって。

- (委員) 内観もそれによつては少しね。
- (古谷) こっちには学生たちが好きそうな本を並べてあげるとか、でも、それをこっちの人だつて見たい人がいる訳で来ますよね。後若いと思つている方はいつまでも。
- (委員) このA案B案つていうのは選択の処理はどういう形で進められたんですか？
- (古谷) 実はA案B案でも建築の部分は変わりません。それから、今密かに考へているのはA案でもB案でも同じ家具を場所変えるだけで出来るよつとということですよ。
- (委員) 今年いっぱいですよ。
- (古谷) たつた一つだけ、子供のコーナーだけ床を土足禁止の床にするつていう事だけは、建築的には違ふんですね。あのA案見ていただければここに作つてあつたつこういう本棚をB案の本棚をここにくつつけば、これにもなるし、つていうくらいのものであります。このこれをこつちに並べてこれをこつちに並べれば、つていう程度のもので、実はもう少し進んでいつたら本当にそこに場所がなつとなく出来てきます。そうしたらこつちが本当にこれでいいかな、どうかやつてやる事は出来るんですよ。
- (委員) だから、そういう風に考へていかないとね。
- (古谷) 僕がいくらこれを言つていても開館してみたら…。
- (委員) でも、それは本当に様子を見てね、動かせるものを動かさせていけたらなつて思ふますよね、皆さんの意見聞きながら。そういうのはもうやつてみなくちや分からないんでね。ただ、その為には、さっきの給湯の話とかそういうものは確實においておいた方がいいと。
- (古谷) 散々色々つ皆様からのご要望を取り入れた中で、A案でもB案でも家具の置き方だけで変えられる程度のも案はないなつて考へたのが今日のも案なんですよ。その間にどうしてもこれは出来ないし、それはやつぱり向いてないつて思つたのが、ここにつこういう風に入り口のカウンターを作ることで、どうやつてもなかなか上手くいかなくて、それは今この案にはなつていません。でもこうやつてみてから、このカウンターのさっきのお湯の問題だけはありますけど、こつちの方が、ここに何かあつた方がいいつていうのなら、これらはただ置いてあるだけですので、ここに何かを増設する事は何でもないと。
- (委員) 割とね、円形のものがお好きなよつなんですけど、ここのテーブルがね、どうして四角なのかなつて…。丸くこつするつてことは出来ないのかつて。
- (古谷) あの、丸いもの好きなんですけど、でも、全部丸いものだけで出来ると少し辟易してくるので、やつぱり、丸いものと四角い物が上手く組み合わさつてるといいんですよ。直線的なものとカーブしたもの。直線的だけで出来ていると堅苦しいし、丸だけで出来ているとくによやくにや気持ち悪い。気持ち悪いだ

けじゃなくて、カーブしているといい事はこういう風にみんなの顔が見えるとか、あるいは、お互い近くだけど違う事出来るとか、そういういい事もありますが、良くない事がひとつあります。それはどういう事かっていうと、例えば、ダンボール、カート、台車、何かそういう種類のもの、今世の中には四角い物がいっぱいある訳でして、それが近くに来そうな所に丸いものがあると置きにくい。これが最初から四角いのは、ここに何か四角いカートだかそういうものやちょっとしたこういうキャスターつきのラックだとか、そういうようなものが、必要に応じてここに置かれるだろうなど。現にボランティアの方のテーブルも四角いテーブルを並べました。丸いテーブルってジョイントできないんですよ。よく、コーヒーショップやなんかでグループだと丸いの繋げるけど、この間にきた時気持ち悪いじゃない。四角い方が都合のいいものもあるんです。そして、僕は多分この周りは四角い物が結構出てくるんじゃないかなと思って今は四角くしてあります。

(委員) あの、北斎の絵で、早教えというそういう本があるんですよ。その中で北斎は何を言っているかという物事の形状って言うのは全て丸と四角、まあ三角も含めてですね。それを描く事によって、物が出来たんだと。だから、そういう意味では、やっぱり、四角と三角、それから、丸っていうのはバランスが取れてあるっていうのはひとつの物っていうのはそういうものなんだって。やっぱりバランスとってあるって事はね… (拍手)

(古谷) ありがとうございます。

(委員) 北斎が言っていた手本の通りの形状であるんだということは、まあ敢えて言えないこともないかと。

(古谷) 勉強になりました。

(委員) これからの建築に関する行程って言うのは先生が考えるんですか、ゼネコンが考えるんですか？

(古谷) 実際の工事の段取りを考えるのはゼネコンですね。それを管理するチェックするのは僕たちです。

(委員) 管理する側は分かりましたから、例えば大まかな処、解体がいつ済んで。

(古谷) それは役場が考えることで、僕が考えることでは。

(委員) 例えば鉄骨がどれぐらい上がるのかとかね、声がけはどうなっています？

(古谷) それは、解体それから本体の着工それから竣工と、大まかなスケジュールはもう決まっています。大体ね。その中で実際何月何日にどうやって何ヶ月ぐらいかけて鉄骨を製作して、これは建設会社が。

(委員) 今、これを動かすのにどれくらい時間的に余裕があるかということの判断を若干するためにね…。

(古谷) どれを動かす？

- (委員) だから、例えば今 A にするか B にするかっていうのをね。じゃあこの辺のこと考えなきゃいけないとかね。
- (古谷) A にするか B にするかは、さっき言ったように家具だけで解決できる所はまだもうしばらく。いつ頃かな、家具を作るまで大丈夫なんですけど。まあ、実際には家具も含めて発注するので、建築の一部なんですけどある種のもは…。ですけど A か B かっていうので同じ家具でこっちに置くかあっちに置くかという問題で済むのであれば。
- (委員) 家具だけじゃないものもあるじゃないですか。例えば入り口。今引き戸になっているけれどもドアがいいとか。
- (古谷) それはやはり最後に実施設計まとめた時に確認をして頂きたい。ただ、今までもそうですけれども、どこかでこういう風に使いたいというご希望を伺って、その中でこういう風に使おうっていう風にお決めになったら、そこから先は少し任せて頂かないと。皆さんにこれ引き戸にしましょうかどうしましょうかと、全部一々聞いて研究することはちょっと難しいんですよ。出来上がったものをもろんご説明します。設計最後まとめてこれでいいですかっていう風にまとめて。
- (委員) 悪いけど自分の経験でね、仕事を出して自分で設計して途中で見たら、全部 180 度開閉できるドアが 90 度開くか開かないかそんなのができちゃった。できるかできないかと思ったことがあるわけですね。だからそういう部分は…、そこは管理お任せするからいいんですけどね。
- (古谷) 実際には、今日の段階でこの大きな箱、中がこんな風になるこの箱はこれでいいなということを決めて頂ければ次にこれについて実施設計をします。ここにある何センチの扉が入って、扉が開くというようなことも全部決まります。それが出来上がった時に実施設計が一応まとまるんで、本当にそれでそのまま見積もりをする前に、やはりみなさんに一度見て頂く機会を。それでその時に今日よりもっと時間をとって細かい所をいっぱいご説明しなければなりません。それをした所で確認して頂くことになると思います。
- (委員) これが GO か NO じゃないかここで否決しなきゃいけないという事だね。簡単にいうと。
- (古谷) 箱は決めて頂きたいなど。
- (委員) 長野県、今度森林税というものが取られることになりまして、県の木材を使っていこうという方向なんですけども、この中で製作できるものというのはどのくらいなんでしょう？
- (古谷) まだ今、ちょっと基本段階なので分かりませんが、まず基本が木造ではこの形、空間はできないので鉄骨で作ることになります。ただ、その他諸々の製品の中に、例えば本棚・家具それから間仕切り、あるいはこういう所のス

クリーンのいくつかこれらに木を使うのなら、僕は使いたいと思っています。ですから木材という意味ではある程度使える部分がありますから、それはできるだけ県産のものを使っていきたい。それ以外でも県内で造られている部品だとか、製品だとか、そういうものは出来るだけ調達していきたいというふうに思っています。あるいはこういうのあるぞと、こういう物造っているメーカーが長野県にあるんだというのをお知り合いや何かで情報があれば教えて頂ければ、それが機能的に合理的に使うのに合っていれば対応することが出来ると。

(委員) 建設費がもし見合わないとなりますね？先ほどそれも想定して造ってあると言っていましたけど、仮に先生だったらどこを一番先に詰めますか？

(古谷) 今大きな考え方で言うところの空間を確保するのが一番だと。つまりあとから出来ることは後に。この大きさは、後からちょっとお金に余裕が出来たからと、いってもう少しこちにずらすか、というのは出来ませんから。そういう基本的な大きさや広がり高さといったようなものは押さえておいて、あとはやっぱり表面の仕上げであるとか…。

(委員) 内装とかね。

(古谷) そういうもので、やっていく程度のもので追いつくはずだと思っています。

(委員) 期待しています。余らせて欲しいぐらいですよ。

(古谷) 余ることは決してないと思います。

(委員) 余らして、本沢山買ってもらった方がいいや。

(委員) すいません。それと屋根の問題なんですけど、ちょっと話し合いの中で出たのは、地球温暖化が今騒がれているんですが、それを防止する意味で太陽熱利用とか、予算的に今無理ならばやがてそういうことが国なり県の方から補助金が出た時に改築できるようなそんな工法にして頂ければありがたいということ。

(古谷) 屋根面そのものを、例えばソーラーパネルという物に置き換えると言うことは、この形状ではあとからやることはなかなか難しいと思います。ただそういう物を増設する。所謂、屋根をそれごと取り替えるんじゃなくて、増設するそういう予算がついたりした時に、増設するという考え方はないわけではありませんが、この屋根面は結構デリケートなものでありまして、太陽熱を利用することだけが地球温暖化に貢献するわけじゃなくて、屋根の断熱をどういうふうにするのかとか、そういうことや中間期の自然通光をどういうふうにするのかとか、そういうことによっても地球温暖化とかCO₂の排出と言うのは抑制できるわけなんです。太陽光パネルと言うのは非常に目立って特徴的だから分かりやすい例ですが、ここで今織り込んでやると言うよりは、この建物全体がそういうその空調やなんかにエネルギーを掛けなくて済むような、そういうスクリーンにしていくことで、地球温暖化対策には答えて行きたいと思っています。

(委員長) はい、時間の関係もありますのでここで打ち切ります。今先生からこの線で行きたい、この線で行くということで説明がありました。2月の全体会の時に皆さんの確認を取った上で、ここまで来ていますので、この構造的な概観に関してはこれでいくという形で、後は家具などに入るという感じでよろしいでしょうか？

(2) ワークショップ テーマ：家具について

(委員長) 皆さん、それでよろしければこの場でその線で固めて、この後のワークショップに入って行きたいと思います。

今から八木さんからワークショップの進め方やテーマについて少しだけ説明して頂いて、そのあと20分間。テーブル4つにわかれて頂いて各島で司会・書記・発表者を決めてください。各島に部会長副部会長いらっしゃると思うのでリーダーシップをとってその役割を決め発表者まで決めて頂いてから、議論して頂きたいと思います。後で3分間ぐらいずつ発表して頂きたいと思います。その上で先生にコメントをして頂くということで、全体で40分以内に終わるようにして次の議題に入りたいと思います。お手元に黄色いメモ用紙もありますので使ってください。それでは八木さん、ポイントを教えてください。

(八木) 前回2月に引き続いてみんなでグループ討議をして、まとめるというか自由に意見を言う機会になります。今日のテーマは、簡単に言うと家具についてというのが大きなテーマで、今の古谷の説明や今の意見の中で自由に考えて頂きたいなと思います。大きく言うとゾーニングについてですね。静と動という話もありましたし、子どものゾーン・ヤングアダルトというのもありましたけど、そんなゾーン分けもいらんんじゃないのかという説もあります。ですからゾーンについて。それからあと前回もやりましたけど、二つのカウンターの役割分担っていうのはどんなことが考えられるかっていうのを、もうちょっと皆さんイメージが膨らんできたと思いますのでその辺も聞かせて頂けるといいなと思っています。そのくらいで、後は自由に意見を出してください。

(古谷) しいて言えば、先ほど家具のこんな使い方が出来ますというご説明しましたが、ここに置いてある家具はこんなことにも使いたいたいというようなことがあれば、その使われ方のイメージをぜひ出して頂ければ。全部盛り込めるかどうか分からないけども、やれるものは取り込んで行きたいと思いますので。家具を私ならこんな風に使いたいたいけどというのをぜひお聞かせ頂きたい。

(委員長) では今7時50分ですので、8時10分まで20分間司会の方お願いします。部会長さん、副部会長さん、取り仕切りをお願いします。

～ワークショップ（20 分間）～

(委員長) それではこちらの班からでいいですか？

(委員) では、発表します。僕らの班はまず、A 案と B 案でどうなんだろう？どっちがいいかというのを話し合いました。基本的に A 案の方が皆いいんじゃないかなというふうに思っていて、B 案は子ども基地などを入れて遊ぶのにはいいんじゃないかな、ということは分かったんだけど、まあ A 案の方がいいだろうと。ただ、ひとつ A 案で気に入らないと言うか皆さんが危惧しているのが、どうしても一番良い場所が児童コーナーになってしまっているの、そこを子供だけに独り占めさせておくのは勿体無いと。どうか大人も気軽に入れるような空間になったらいいなと言うのがあります。それさえクリアすれば A 案がいいんじゃないかというのが僕らのグループの結論です。後は単発的にあがったのをひとつずつ読み上げて行きます。授乳コーナーはやはりこの場所がいいんじゃないかなという事です。ヤングアダルトコーナーはヤングアダルトだけでなく大人が 5、6 人で相談したりするのにもちょうど良いんじゃないかと。あとは一人で新聞を広げて読む時などにも便利じゃないかということがありました。サービスカウンターの所ですが、コンシェルジェカウンターなどについてやはり、これはやって見なければ分からないだろうなというのがある、その辺はやってみて職員の使い勝手に考えてもらいたいと。それで職員がやりやすいようにやることで、生き生きと働いてもらって雰囲気の良い図書館になるんじゃないのかなということが出ました。後はジグザグに配置されたイスの所ですが、隣にいる人を気にせず居られるのでいいなと。あと一般図書コーナーの二人掛けのイスと机については、幅が広いので二人で掛けても十分気まずくないんじゃないかなと。それがいいという話が出ました。書架のことで、書架の小口の部分今イスになっていますがその背面の部分に新しく入れた本などをこう並べると、新鮮味が出てそれに引き付けられてどんどん奥に入って行くんじゃないのかなという案がありました。以上です。

(委員長) ありがとうございます。次の班、発表をお願いします。

(委員) 児童コーナーが A 案がいいか B 案がいいか、その辺から話し合ったものの、賛否両論と言うか、この図にはこれがいい、あの図にはあれがいいということで、結論には至りませんでした。ただひとつ、図書館全体の静と動のゾーンの分け方はどうだろうかという話になりました。コンシェルジェとカウンターを結ぶ動線がある以上、そのエリアは動のエリアになるだろう。児童コーナーを三角の所に持ってきた場合そこも比較的動になり、南側も動になり、静が上の限られた部分になるだろう。いずれにしても、サービスカウンターとコンシェルジェカウンターを結ぶ線が動である以上書架を越えて南側に音が漏れるだろ

うと言うことで、児童コーナーが A 案であってもある程度南側に音が漏れて、ここも完全に静かではない。それではと言うことで A 案にある南側に一般図書コーナーとヤングアダルトコーナーを入れ替えて、どちらかというところざわ感のあるヤングアダルトコーナーを南側に持ってきた方が児童コーナーをあのままにしても案外いいんじゃないかなというアイデアがでました。以上です。

(古 谷) どこですか？

(委 員) この児童コーナーが今までの位置にある案の場合でもヤングアダルトを南側に持って来た方がいいのではないのかと。必然的に人が集まるテーブルを音が漏れる南側に置いた方が、静の静けさを保てるのではないかという話があって、なるほどということ、全員一致しました。

(委員長) ありがとうございます。では次の班をお願いします。

(委 員) うちの方も今言っていたように南にヤングアダルトコーナーを持って行って、一般図書コーナーをこっちに持って来たほうが良いと言う案が出ました。理由としては、蔵書の件ですがヤングの本の蔵書がここ全部のスペースよりは今は無いので、そういう実際の蔵書本の開架を考えて是非にこれ入れ替えると言うことじゃないんですけれども、この所は蔵書のことを考えて行くと、案としてはヤングと一般にしました。入り口の処ですが返却ボックスはどの辺に置くのだろうか。ボックスは可動のものだろうか。それから、傘立てはどこに置くのだろうかと言うことです。その前に、全体の色調はどんなだろうかという意見が出ました。次にカウンターですがカウンターの役割分担はどう運営していくかによって変わっていくだろうと言うことでした。でも今までの流れでは、入り口カウンターの方が重要と言うかメインになるのでは。それから建物の方としては、倉庫の所が開き戸になっているんですが、引き戸にしてもう少し開きの開放部を広くして頂いた方が、荷物の出し入れが楽です。それから、一般図書コーナーのここですが、ここも靴を脱いだ方が寛げるかなと。それから、注文ですが、このあたりにイスが置いてあるんですが、座る面を蓋にしてその中に雑誌などを収納できるようにして頂けたらいい。

(委員長) 最後に言われたのは、どの部分ですか？

(委 員) このソファの部分なんですけどこの座る面を持ち上げて、中に。

(古 谷) いまそこに置いてあるベンチみたいな蓋をあけて？それは読まない、読んだ雑誌を？

(委 員) いいえ、整理のためのものです。

(委員長) はい、ありがとうございます。じゃあ先生コメントをお願いいたします。

(古 谷) どうもありがとうございました。色々気が付かなかったことも含まれていましてとても参考になると思います。一つ一つここでコメントしていくと言う感じではないんですけれども、どうもやはりみなさんの話を伺っていると、全体

の論調としては子どもコーナーは元の所にあってもいいんだけど、たまには大人も使えた方がいいんだがな、という感じだったでしょうかね。強くこの三角の所に子どもコーナーを持っていった方がいいよという意見は比較的少なかったと聞きましたけれど。前からこれも申し上げていることですが、年がら年中子どもが子どもコーナーにいつもはまりっ放しで、いつも騒音立てていて、それでいつも静かなところで本を読む人は迷惑している、そういう事はまず無いと思うんですよね。使われている時間帯が違ってきたりするし、これも復習になりますけれど、いつもは子どももほどほどに気をつけてもらいたい、だけどあるときは全館を使って子どものためのイベントをする日が、ひと月に1度かふた月に1度ぐらいあってもいい。その日はちょっとお子さんたちの声が響いているから、来る人は我慢してくださいねとか、あるいは予め分かっているならその日は子どもがいると思って来てくださいというような、そういう柔軟な使い方をしてもいいんじゃないかと思う。そうなると、子どもコーナーも靴を脱いで上がれるコーナーだから、大人の方たちがその上に座り込んでいる日ってというのが逆にあってもいいし、いつも行ったらおばあちゃんたちが占領してしまってたんならまずいけれども、あるときには大人がそこで会に使って下さいってというのがあってもいい。それは、割合上手にお子さんたちが来やすい時間を狙ってそういうことを企画して頂ければ全然問題なく出来るんじゃないかと思う。普段はそうは言ってもなんとなく、この小布施の図書館は、ここは高校生でこっちは何とかって風じゃなくて、どこにでもどの年代の人がいてもよくて、大人の中に子供が混じって読んでいても、子供の中に一緒に高齢の方が入ってそこで一緒に読んで。読んでいる事で自然に、この話知っているってというような会話の糸口になるくらいの方が良くて、年代別になんとなく呼んでいますけど、その通りにその年代の人がきちんきちんと座っているって言うようじゃないイメージをぜひ作って頂きたいなという風に思う。たまには誰かが占領して、普段は比較的老若男女が混ざっていて、混ざっているからこそたまたま居合わせた大人の方に、読み聞かせの会じゃないんだけど、読んで聞かせてもらえることもあったり。あるいは、中には紙芝居を得意になってしゃべってくれるおじいちゃんなんかいてくれると良くて。そうするとあのおじいちゃんが来たときには紙芝居読んでもらえるみたいな感じのことが、自然にできてくるような図書館になるといいんじゃないかなと思います。それから、こちらでもあちらでも出た話で、楕円形のテーブルと、そのヤングアダルトと一般のコーナーですが、確かにお話伺ってみると会話の弾みそうなものを南側に持ってくるという説もあると思います。これ十分検討に値する。つまり、その所だけ A 案と B 案を入れ替えたようなものですから、これはありうることだと思えます。この時にも机の使い方を例えば仮にヤングアダルトと言

っているから、こっちが大人でそっちが学生みたいに見えるんだけど、大人の方でもきちんと何か広げて、何かの分野の勉強をされることがあるかもしれないし、あるときは大きな机に伸び伸びと大っぴらに広げて何かをやりたいこともあるかも知れないし。どこかでこの大きなテーブルは人がいない時であればここに新聞大きく広げていると気持ちよさそうだなって言うのがありましたけれども、そういうことも十分あるような気がするので、これからちょっと帰って考えますけど、もしかしたらその楕円形のテーブルを南側に並べておいて、割合平日の午前中で人が少ない時なんかは、そこの所は日なたというか明るい空間なのでヤングアダルトと言いながら大人も、そこで午前中は新聞広げて読んでいらっしゃる方が大勢いるなっていうようなことはそれはそれでいいかも知れないような気がする。ですからタスクライト付きの割合きちんと勉強できる感じのものを東側に持つてくるというのは一理あるような気もしてきました。それから最後の方でそちらからいくつかの発表が出てあのベンチの所の蓋を開けて、そこに雑誌のバックナンバーやなんか入れたらいいんじゃないかという、これも運用で出来るような気がします。ただちょっと気をつけないといけないのが、そういうのでばばっとなんか入れられるような物があると、変なものを入れられてしまうこともあって、開けてみたらゴミが入っていたとかかなりかねないのでその辺をどうするかということがあります。それから多目的室の収納の扉はその通りで今仮に倉庫風に描いてありますけども、ちょっと身が薄くなってきましたから、ばたばたと開けられる折戸のような扉にして、さっきこちらで伺っていたら、多目的室では例えば工作系のワークショップをした時に、手が洗えたり絵の具が洗えたりする流しがあった方が便利かもしれないというお話があったので、もしかするとその多目的室の倉庫のバタバタっと開けた中に一箇所くらい流しが入っているようなそういう仕組みもありうるなという風に思っています。ですからこれは、物入れ関係についてはもうちょっと細かい、さっきの傘立てもそうだけど、その傘立ては多分風除室のあたりに出すことになると思う。いつも出ていてもかっこいい傘立てが出来るかどうか、ということなんですよね。そこにまた汚い傘が置きっぱなしになったりする場合もあるので、それをどうするかというのはちょっと考えものですが、でも必要なものですから考えたいと思います。それから返却用のブックポストも同じ。今の所は開閉…例えば、一つの方法としては風除室の内側の方の扉を鍵を掛けておくけれども外側の扉は開くようになっていて、その風除室の所に返却用のポストを出しておくっていうやり方もあるかなと思っています。それも含めて玄関回りのことを考えていくと、いずれにせよ家具レベルだけで対応できると思う。そんな感じで、多分まだ僕が聞き漏らしていること沢山あると思いますが、多分ハードの部分の建設はほぼこれで進めていっても皆さんが十分使いこ

なしていただけるんじゃないかという気がいたしますので、もしよければいつまでやっても終わらないものですから、建物本体の部分はこれで実施設計の方に入らせて頂きたいなという風に思います。ありがとうございます。

(委員長) どうもありがとうございました。最後に先生もう一度確認された建物本体の実施設計このまま進めますと言うことで、みなさんよろしいでしょうか？

(古 谷) 先ほどあちらでお答えしたんですけれども、いずれにしても基本設計ですからこれ間取りが決まっただけですので、これ実際には、窓枠はどんな大ききで、どんなガラスを入れて、どんな風にするかっていうのが実施設計、あるいは構造的に計算すると柱の太さがが 20 c m でいいのか 25 c m になるとか、あるいは設備の暖房の方式はこれでいいのか、吹き出し口はこれでいいのかっていうのが実施設計に入ってきます。結構専門的には忙しい時期に入んですけどそれはまた一通りまとまった所でこのように設計をまとめようと思っておりますっていうふうに皆さんにご報告できると思えます。そうするとこのドアの開きが中開きでどのような大ききなのかって言うのが一応みんなお答えできるような状態にまとまりますので。5月頭ぐらいの時期にそういう物をまとめようと思っております。5月の全体会の時にご確認を頂くようなスケジュールを組んでおります。そのようによろしくおねがいします。

(委員長) では家具や色調については？

(古 谷) はい、これは今私が思っていたのはプロポーザルの時からあんまり変わっていないんですけど、基本的には奥行き深い図書館になるものですから、中に入った光を出来るだけ奥にバウンドしていくような、白っぽい色を基調とした内部空間を造ろうと考えています。ただし魅力があるので考えているのは、一つは小布施ならではということがあって、土足でも気にならないって言うために前にもお話ししましたが室内のクランクに床にぜひ木煉瓦を敷きたいと思っているのが一つあります。木煉瓦を外部で使うと大変手が掛かると良くご存知だと思っておりますけれども、室内において土足の所に使うと非常に気持ちのいい環境に、しかも雨風が当たらないので基本的に長持ちします。それと全体白い空間ですけどもそこに木の風合というか床前面に広がっていて、その中に本棚やなんか基本的にパネルやなんかにも木材のパネルが混ざっていると、全体は白いけれどただ白くて冷たい感じにならなくて済むんじゃないか、その白と木の風合が混ざったような感じにしたいと僕は考えています。

(委員長) はい、ありがとうございました。それでは今日の会議事項のワークショップはこれで閉じたいと思えます。ありがとうございました。外観などについてはモデルが北斎ホールの町民ホールにありますので、見たい方はご覧下さい。今日の模型も同じ場所かこの庁舎内に明日以降置いて頂けるということなのでまた詳しくご覧下さい。

(3) 図書館建設運営委員会の今後のあり方

(委員長) それでは3番に移りたいと思います。これについては図書館の建設運営委員会、全体会の今後の在り方ということで皆さんにおはかりしていきたいと思っています。今日の全体会の前に5時から準備会を開きまして、準備会としての方針をまとめてみましたのでお聞き頂いて、それでみなさんのご意見頂いて確定したいと思っています。去年古谷先生が設計者と言うことで決まりましたから、今まで4ヶ月間三部会に分かれて議論して頂きました。本当にお疲れ様でした。実施設計という段階に入りまして今までは建設・運営・電算化に分かれて、いずれも建設をどうするかというのを念頭に置いた議論だったと思うんですが、これから建設が決まった後は、中をどうするかそれと将来的に運営をどうするかという話になっていくので、今までの建設をどうするかということを前提においた三部会というのはここで一旦解消したいと思います。但し部会は解消するんですけどもこの全体会としての委員会は、来年の4月開館まで一環して続けると。その理由はこの委員会そのものが今までのハード事業と違って、住民の皆様すべてにおはかりしたり参加頂いたりしてですね、来年の開館以降の住民参加を促すためにも住民の意見を最大限伺うための委員会ということですので、ここで一端の締めは迎えますが委員会は存続させる、これが二つ目。その上で今までの委員はもちろんですけれども改めてここで募集をして広く多くの人に参加して頂きたいと思っています。これが三つ目です。四つ目として今後のあり方ですけども、一番近い全体会が4月19日土曜日、午後3時から5時に決まりました。

それに向けて4月1日という大きな年度の節目というのがあるんですが、4月19日以降の全体会は、今後運営を担って頂く花井館長さんの指揮の下で、その折々のハードも含めた色んなテーマを議題にして、このようなワークショップ形式や全体会の形式を継承しながら来年4月の開館まで走りたいというように今は考えています。全体会・ワークショップもやりますが勉強会、色んな図書館の専門の先生を迎えての勉強会や研究会、またこの館だけじゃなく町中を図書館にしようという以前からある構想、そのような構想についてもみんなで話し合っていきたいという風に、一度建設のための三部会から、チャンネルを運営のための皆さんの議論という風に4月1日からは新規一転変えたいと思います。大体私たちの構想は以上ですが、もしご意見頂ければ。より良くしていきたいんですが…よろしいですかね。ではこのような形で改めて募集等呼びかけ、19日のご案内も差し上げますので、ぜひお知り合いの方や今まで委員をやっていない方にも声をかけて頂ければありがたいと思います。その他何かみなさんに伝えたいこと等ありますか？

(事務局) 再募集の関係ですけれども今回についても、大分色々声をお掛けしたんですが、中々固まった運営委員会に出づらいというのもあるかと思います。ぜひ委員のみなさんで近所など声を掛けあって頂きお誘い頂ければ。もし通知が欲しいと言えればそこへ 10 でも 20 でもお送りしますし、会合やそういう場へ引っ張って頂ければご連絡いたしますので、よろしくをお願いします。

(委員長) 分かりました。それでは議題は以上ですが、あと 10 分ぐらい先生の発表を。

(古 谷) 実は 2 月ぐらいのとき皆さんに大変ご厄介になりました。日韓フランス人もいたワークショップをさせて頂きまして、大変お世話になりありがとうございました。その後、彼らは大変短い時間でしたけれども、それまでに彼らが考えた案を大急ぎでまとめ発表会をいたしました。花井さん始め町の方からも何名か来て頂きましたが今日はその結果を簡単にご報告したいと思います。

～パワーポイントで発表～ (10 分間)

(委員長) 先生ありがとうございました。これについての質疑はしませんがまた個人的にしてください。

(館 長) この資料を僕のほうで貰っていますのでこれをどこかに張るようにしてまたどこかで皆さんに色んなことを考えて頂ければいいなと思っています。

4. 閉 会

(委員長) それでは、次回の全体会は 4 月 19 日の土曜日、3 時～5 時ということでよろしくをお願いします。どうもありがとうございました。